





研究者名※	奥波一秀	学位※	博士(文学)
所属※	人間社会学部 文化学科	職名※	教授
連絡先	okunamik@fc.jwu.ac.jp		
URL			
researchmap※	https://researchmap.jp/okunami		
研究分野※	音楽文化、ドイツ文化・思想		
研究キーワード※	音楽、政治、思想、哲学		
共同研究・競争的 資金等の研究課題			
社会貢献・産学官 連携活動等			
受賞歴	第32回とやま賞(2015年)		

研究領域	音楽文化	(SDGs)	 
研究テーマ※	明治以後の雅楽の意味づけの検討		
概要※ (概ね1000字以内) (写真・グラフ等自由)	<p>【研究の背景・目的・内容】 国歌《君が代》の音楽的な特徴をどう理解できるのか、理解すべきなのか。このことの検討を通して、日本の明治以後の文化(の自己理解)の問題に照明を当てることが、研究の目的である。</p> <p>【応用例、研究の展望】 《君が代》の楽譜(墨譜)に記された「壹越調律旋」という規定の意味を正確に把握する必要がでてくるが、まずは「律旋」の明治以後の意味とその問題については大まかに見通しを得た。「唐楽六調子」についていわれる「呂律」の概念形成の歴史とその問題についても、あるていどの見通しを得た。 上記をふまえて、《君が代》の旋律に関する明治以後の議論を丁寧に調査・分析・考察していくことを計画している。</p> <p>【研究方法の特色】 《君が代》についての言説は、国民国家日本の文脈においてそのつど強い政治的なバイアスがかかってきた、という点を意識しながら、一般的に要請される以上に、「事実」に即した厳密な議論・考察を心掛けている。</p>		
本研究関連 特許・論文等			
共同研究・外部機関 との連携への期待			